



たてやま

おらがんまつち

2015.03 No.24

南総祭礼研究会

船形地区大塚



館山市船形地区

大塚

- 製作年 明治三十五年
- 彫刻師 後藤利兵衛・橋本義光
- 彫刻 昇り龍・降り龍・七福神・二十四孝、他多数
- 上幕 富士に雲龍
- 大幕 前に大青牡丹文字、加藤頼三(羯鼓、笙)によう鉢
- 泥幕 波に千鳥
- 全長 四・二m
- 全幅 二・四m
- 全高 四・九m (人形上げ時約10m)
- 重量 四t
- 大太鼓 一尺九寸五分
- 半纏 大(大塚青年)の文字



現在では百七十八世帯からなる、市内最大の船形漁港を中心とする港町として館山の観光の一翼も担っている地区です。

そんな船形地区の中心的位置にある大塚区、その昔は現在の船形駅前十字路から小学校前付近辺りは「汐切山」と呼ばれる高台になっており、松林に覆われていたそうです。その後時代とともに、銀行や郵便局、学校、船着場等の施設が集まった船形の心臓部として栄えてきました。

大塚の自慢は何といっても房総最大級を誇る山車で、この山車の基となったのは、江戸時代末期に相模の国・浦賀で造られた山車で、当時三浦に出稼中の船形の漁師がこの山車の事を聞きつけ、明治二十年代に買い求めたものと言われています。

その後、房州後藤流初代・後藤利兵衛・橋本義光に彫刻を依頼し、明治三十五年に完成しました。その姿は「初代義光の傑作」とも言われています。

初代義光が残したこの壮大な山車を飾る彫刻は、二本の柱に巻きつく昇り龍・降り龍、十二体の力士像をはじめ全二十五面に及ぶ欄干高欄の様々な彫刻、さらには上部高欄を彫刻をもつてうめつくした他に例のない作りや、山車正面から見える六重の彫刻の調和美は見事なものです。

平成二年には彫刻以外の全ての修復と囃子台の前を長くする改修が行われました。そして平成二十一年には胴幕が新調され、さらに美しく重厚な総檜造りの山車になりました。これからも大塚の誇りとして区民の皆から愛され、受け継がれていく自慢の山車です。

地域の紹介

明治二十二年に船形村と川名村が合併してできた船形地区は、船形小学校の校歌の一節に「港をいでて 音高く 樽拍子そろえ 進む船よ…」とあるように、古くから漁業の町として栄えてきました。船形のシンボリック的存在の崖観音や日本三大うちわの一つに数えられる「房州うちわ」のま

自慢の山車

その姿は「初代義光の傑作」とも言われています。

初代義光が残したこの壮大な山車を飾る彫刻は、二本の柱に巻きつく昇り龍・降り龍、十二体の力士像をはじめ全二十五面に及ぶ欄干高欄の様々な彫刻、さらには上部高欄を彫刻をもつてうめつくした他に例のない作りや、山車正面から見える六重の彫刻の調和美は見事なものです。

平成二年には彫刻以外の全ての修復と囃子台の前を長くする改修が行われました。そして平成二十一年には胴幕が新調され、さらに美しく重厚な総檜造りの山車になりました。これからも大塚の誇りとして区民の皆から愛され、受け継がれていく自慢の山車です。



囃子台柱に巻きつく昇り龍と下り龍



彫刻で埋められた上高欄



調和のとれた六重の彫刻